

まつろかん こだい もりかいかん れきしめんぞくしりょうかん
末廬館 古代の森会館 歴史民俗資料館

学習のしおり



くりそうずいこふんぼんりょうかん
久里双水古墳盤龍鏡

●お問い合わせ

財唐津市文化振興財団

〒847-0014 唐津市西城内 6 番33号
TEL 0955-73-1601 FAX 0955-73-1652

唐津市教育委員会

佐賀県唐津市西城内1-1
TEL 0955-72-9171

学校 年 組

氏名

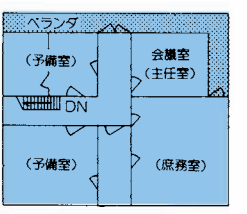
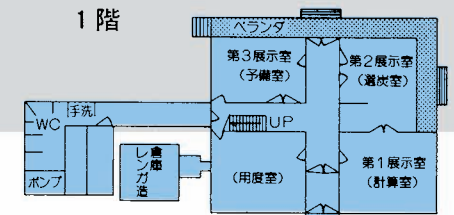
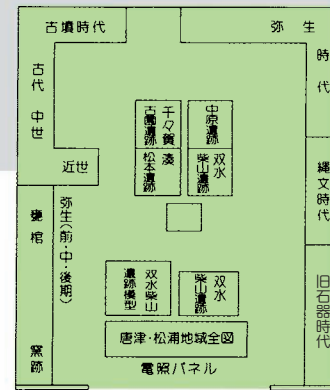
唐津の歴史と年表

日本

唐津

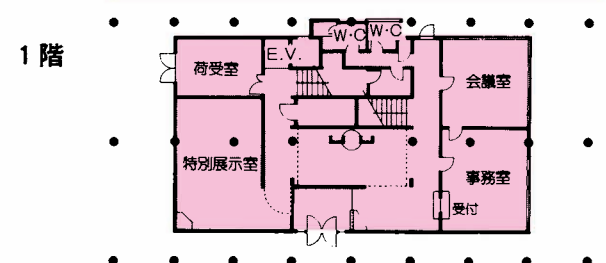
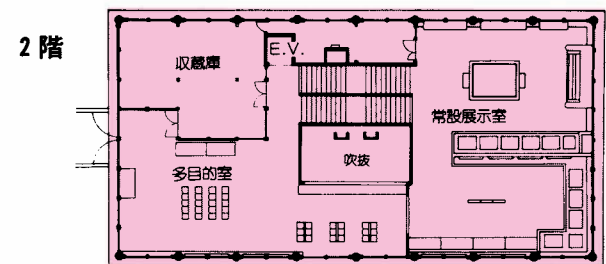


古代の森会館

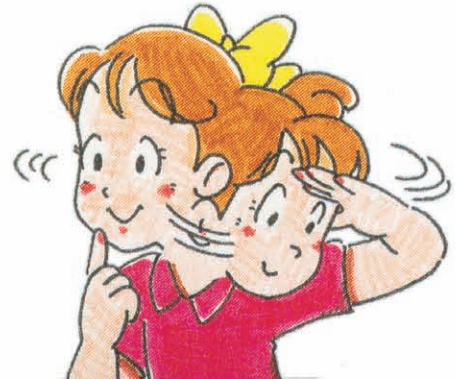


※ () 書きは旧三菱合資会社唐津出張所当時の室名

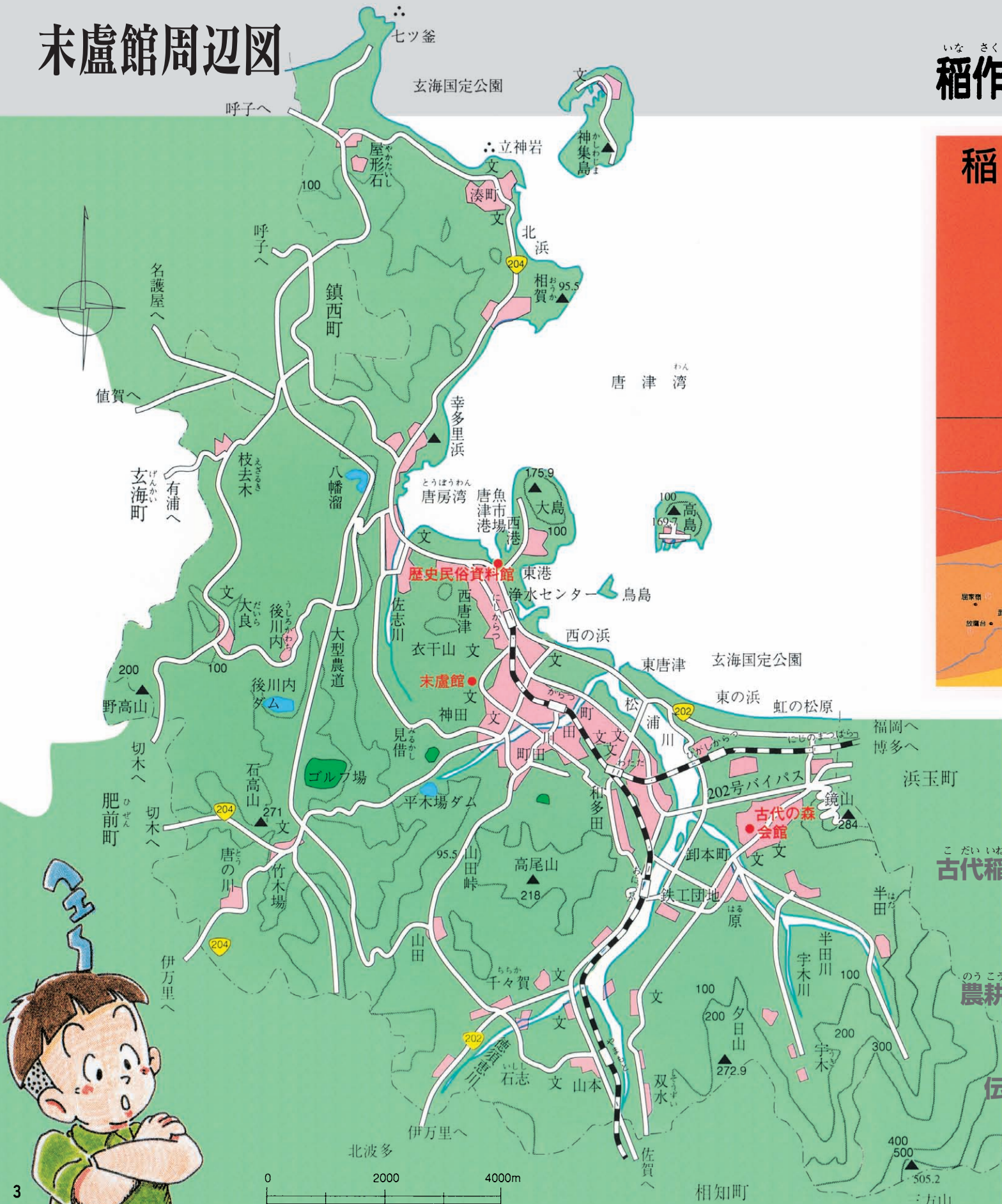
末廬館



歴史民俗資料館

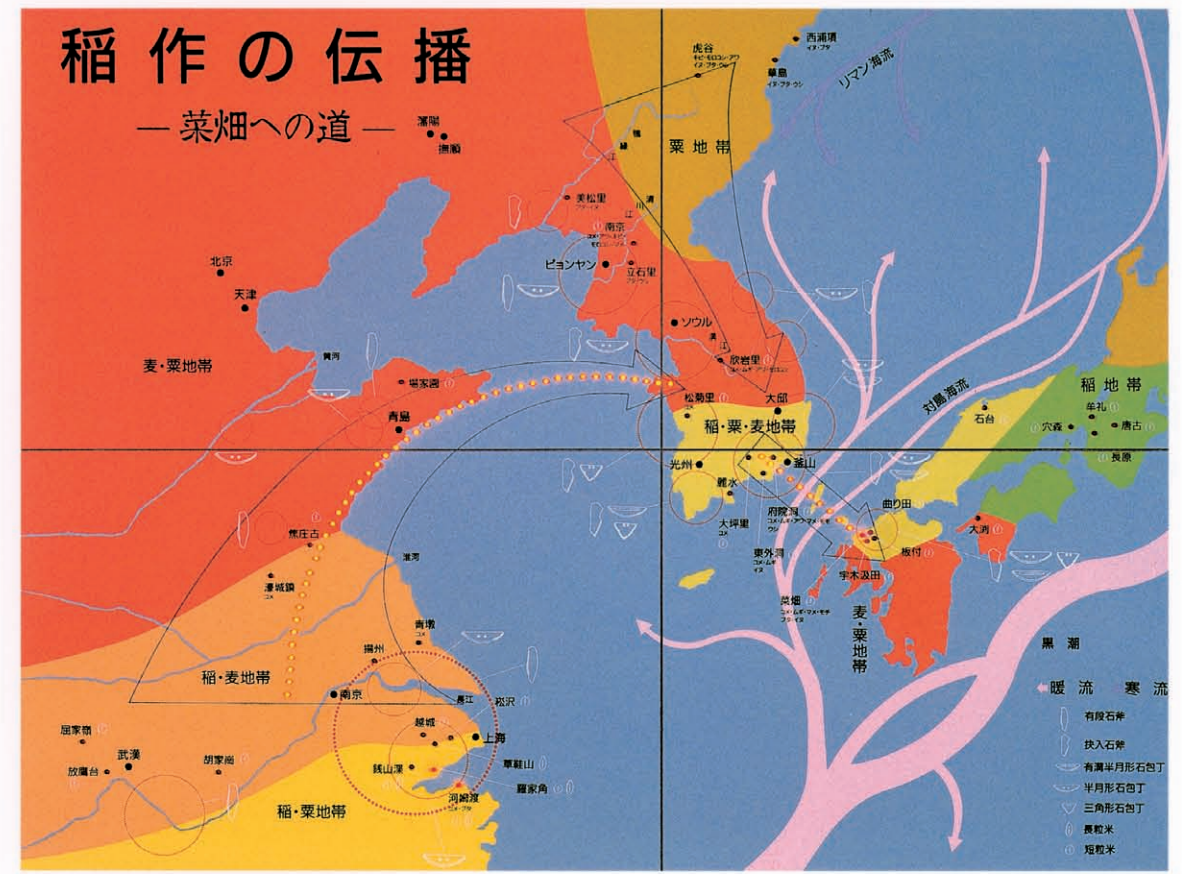


末盧館周辺図



稲作伝播の様子を見てみよう

※でんば=伝わり広まること



原産地

稲の原産地はインドシナ三角地帯・中国雲南省の山岳地帯といわれていますが、もっとも古い稲の遺跡は中国長江(揚子江)の下流地域にある浙江省河姆渡遺跡(BC.5,000)、湖南省彭頭山遺跡(BC.7,000~6,000)などです。

古代稲の種類

古代の稲には、細長い形の長粒米(インド型、インディカ種)と短粒米(日本型、ジャポニカ種)があります。古代遺跡では、インド・インドシナではインディカ種、日本・朝鮮ではジャポニカ種、中国では両方が出土しています。

農耕の種類

中国長江下流地域の河姆渡遺跡では水稲とブタの飼育、華北黄河沿いの地域では畑作(雑穀栽培)、朝鮮半島北部は畑作に似た農耕、南部では雑穀栽培と水稲が行われていました。

伝播経路

日本の稲は、農耕の方法が似ている長江下流地域から華北(山東半島)、朝鮮半島を通して伝わってきたと考えられています。これは出土した石器や土器からもうかがえます。

末盧館を見学すると何がわかるんだろう

末盧館はどんな施設なのでしょう？ どこにあるのでしょうか？
菜畑遺跡とはどんな遺跡なのでしょう？ お米は昔から日本にあったのでしょうか？



●末盧館がつくられたきっかけは？

日本で最初に米を作ったのは唐津の古代人でした。これを証明する日本最古の稲作遺跡が唐津にあります。そこでこの菜畑遺跡の古代の高床倉庫をイメージして歴史博物館がつけられました。

末盧館の 名の由来

中国の三国時代の有名な本、魏志倭人伝には、邪馬台国に行き着く「クニ」で古代大陸と交流して栄えた「末盧国」と書かれています。それが現在の唐津周辺にあたることから名付けました。

●末盧館に 展示されているものは？

稲作発祥の証明となった炭化米・石包丁・鍬・水田跡・ブタの骨などの貴重な資料が展示され、大型ジオラマ模型、生活復元図、絵画、ビデオなどで当時の生活を知ることができます。



●末盧館で行われていることは？

歴史博物館のとなりに遺跡公園「出あいふれあいの広場」が整備されています。ここで毎年、日本稲作発祥祭として春に田植祭、秋に収穫祭を行い、復元水田では古代米の栽培実験も行っています。



菜畑遺跡についての紹介

●菜畑遺跡で何がわかったのでしょうか？



遺跡から発見された出土品から、今から2,500~2,600年前の縄文時代の終わりころ、日本で初めて稲作が行われたこと、根菜類などが栽培されていたこと、ブタが家畜として飼われていたことがわかりました。

●菜畑遺跡はどこにあるのでしょうか？

唐津の中心市街地の西側は平野との境に低い丘陵地が北に延びています。

菜畑遺跡はこの丘陵地にある枝状の谷にあります。遺跡は狭い谷地形の南向き斜面に営まれた集落です。



稲作について考えてみよう

みなさんが毎日食べている米がどのようにして外国から伝えられ、日本全国に広まっていったのか、また、その時にどのようなドラマが展開されたのかを、展示品を見ながら考えてみましょう。

●日本でもっとも古い米とは？

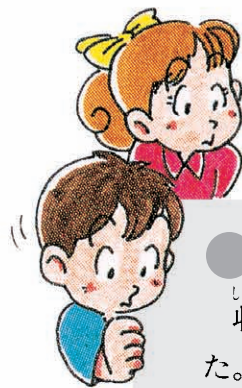
今から2,600年前の縄文時代晩期（BC. 600）の炭化米で、これは焼けて黒こげになった米のこと。今日の日本の米の原種といえるこの米は、短粒型のジャポニカ種で、調べてみると、当時はまだ稲作技術が未熟だったことが分かります。



菜畑遺跡から発見された、長さ4.57mm、幅2.65mmの炭化米

●そのころ使われていた道具は？

農具には木製のものと石製のもののほかに、加工用工具として鉄器も使われていました。水田を平らにならすエブリ、稲穂をつみとる石包丁、稲を脱穀する竝杵、ほかにも鎌、石製の斧やのみ、鉄製の斧なども発見されています。



●食事の様子と食器

収穫された稲は高床式の倉庫に保管されました。米はカメに入れて炊かれ、コシキで蒸すこともありました。食器は素焼の椀形をした小さな鉢で、木製のスプーンやフォークも出土しています。祭りの時には赤や黒で模様が描かれた漆器の椀が使われました。



●縄文・弥生時代の人々はブタを飼っていた

今から2,600年前の縄文時代晩期には、稲作といっしょにブタの飼育もされていたということが菜畑遺跡でわかりました。このことは、これまでの“日本の農業では家畜の飼育はなかった”という説をうちやぶる大きな発見となりました。



石包丁とはどんなもの？

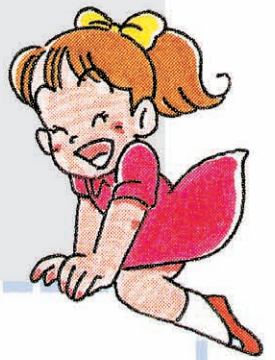
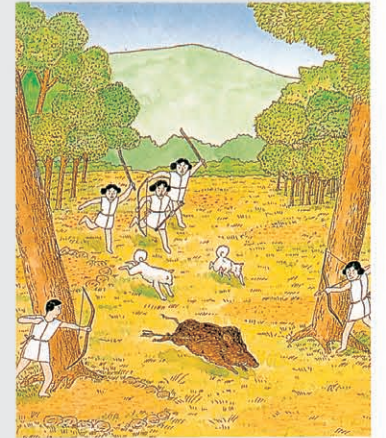


いしぼうち
石包丁



しほてくわ
諸手鎌

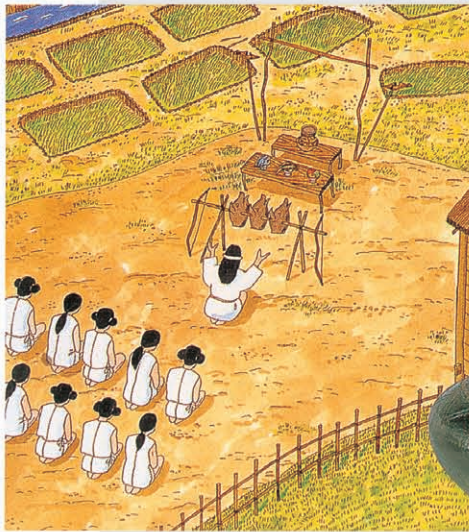
縄文時代・弥生時代の人々の祭り和生活



菜畑のムラの生活はどのようなものだったのでしょうか？
暮らしていたのは縄文人？それとも弥生人？きみはどっちかな？

●当時の人々の祭りはどんなだったんだろう？

菜畑で行われたもっとも古い稲作の祭りは、ムラから谷の水田までのまん中あたりで行われました。祭だんには飼育されていたブタの頭骨（下あごに穴をあけ、棒を通していた）をかざり、さい文土器（色つきの模様が描かれた土器）や高杯（脚のついた器）に穀物などをそなえ、漆器や弓をかざりたて豊作を祈る儀礼を行っていたようです。奈良や大阪など稲作が伝えられた各地にはブタの骨とさい文土器が発見されています。

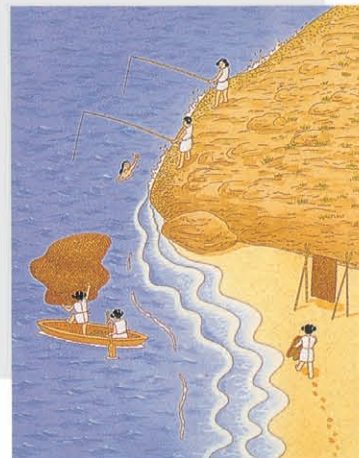


棒を通したブタ3体のアゴ骨

●人々の暮らしを復元してみよう

ムラの暮らし

菜畑遺跡の人々は、干潟を見おろす丘の上に住居や倉庫のあるムラをつくり、ふもとの谷で水田を耕作し、家の回りでブタを飼い、丘に畑を耕作するという農業中心の暮らしをしていました。しかし、山では木の実、イノシシやシカを、海では魚もとっていました。



住まい

このころの住居は地上に屋根をのせ、1mほど地下に床を下げた竪穴式住居と呼ばれるものです。菜畑で発見されたものは直径6mほどの平面円形の住居で、この中で4～5人の一家族が暮らしていたようです。

倉庫

収かくした稲などの穀物を貯ぞうするために、菜畑遺跡では高床式倉庫がつけられていました。

●これらのことからわかったこと

菜畑遺跡のムラの人々は縄文人だったのでしょうか、それとも弥生人だったのでしょうか。菜畑遺跡の出土品から人々の暮らしを調べてみると、大陸からきた渡来人（弥生人）とそれまでそこに住んでいた縄文人と一緒に生活するようになり、新しい技術と古い伝統文化がとけあってムラができたということがわかります。



菜畑遺跡の人々は、米のほかに何を食べていたのだろうか？

メモ

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....



古代の森会館

古代の森会館でわかること



古代の森は古代の宝物でいっぱいです。
 いろいろな道具から唐津地方の3万年の歴史をたどってみましょう。
 さあ、どんなことがわかるのでしょうか？



紫式部むらさきしきぶが書いた有名な「源氏物語」げんじを知っていますか？この中にも登場する鏡神社かがみじんじやは、ずっとずっと昔から松浦郡まつうらぐんの中心地にあつて古い歴史を持っている神社です。この神社の一角にあるのが、古代の森会館です。



旧石器時代

今の日本列島の形ができるずっと前、更新世という時代に生まれた石器文化を旧石器時代と呼びます。唐津周辺では、約3万年前の人々が生活したあとが発見されています。



枝去木山中遺跡

縄文時代

土器製作と弓矢の発明で縄文時代が始まります。動物や魚や木の実などをとる生活が約1万年も続き、菜畑遺跡や徳蔵谷遺跡では朝鮮半島との関係を示す土器や漁具ぎよぐが発見されています。

弥生時代

大陸から伝わった稲作が始まり、金属器が作られ弥生時代が始まります。この時代には大陸の人々の墓がみられ、末盧国と呼ばれた唐津地方にも、王の墓がつくられ始めます。



久里双水古墳

古墳時代

稲作によって安定したムラは、クニを生み出し、指導者がより大規模な墓（古墳）をつくるという古墳時代が始まります。久里双水古墳は九州でも最大クラスぜんぼうこうえんふんの前方後円墳です。



鏡神社一の宮跡礎石

古代・中世・近世

唐津地方は、奈良時代から平安時代にかけて、重要な古代航路のきょ点でした。鎌倉時代から室町時代にかけては、倭寇の活躍する舞台となりました。江戸時代のはじめに唐津城がつくられ、現在の唐津の町の基礎ができました。



久里双水古墳はどんな形をしていたのだろうか？

メモ

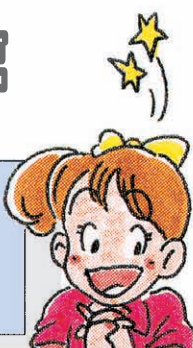
唐津城ができたのはいつ？



歴史民俗資料館

石炭と産業の歴史がわかる歴史民俗資料館

唐津の港は石炭の積み出しから始まりました。明治時代の建物は今から何年前に建てられたのでしょうか？ どこかで似た建物を見たことがありますか？



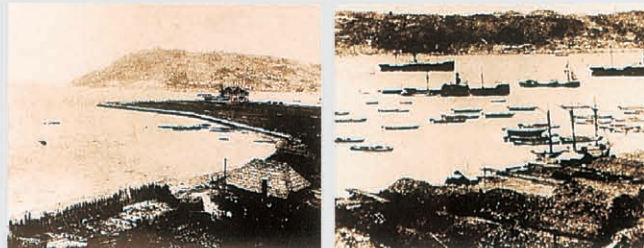
●建物の由来

明治32年唐津線開通から唐津炭田の石炭の積み出しで始まった唐津港に、明治41年9月旧三菱合資会社唐津支店が建てられました。この建物は貴重な明治の木造洋風建築物として昭和53年3月に唐津市重要文化財に指定され、昭和55年2月には佐賀県重要文化財の指定を受けました。これが今の歴史民俗資料館です。



●展示品の紹介

館内には、建物の設計図や、建てた人たちの紹介、石炭の資料、唐津港の今と昔の様子などが分かる資料を展示して、建物とともに唐津の歴史がわかるよう工夫されています。



●明治時代の建築家 辰野金吾と曾禰達蔵について



唐津出身で、明治時代を代表するとても有名な建築家が二人います。一人は東京駅を設計した辰野金吾。もう一人は東京丸ノ内の三菱ビル街を設計した曾禰達蔵です。



武雄温泉楼門

東京駅

ここ歴史民俗資料館（旧三菱合資会社唐津支店）の建物は曾禰達蔵の指導のもとにつくられたと考えられています。



旧唐津農林事務所(公会堂)



辰野金吾はどんな建物をつくったのだろう？



唐津市内にあるこの建物は？